(下刺上)火は?

応仁の乱の頃から強まった、下の地位の者が上の地位の者に強く要求したり、上の地位の者を倒したりする風潮のこと。

この風潮のころ、守護大名やその家色の中から実力で復国をおさめようとする大名(戦国大名)が現れました。

- ィ。 領国支配のため(分国法)という法律を定めたりした。 →(条例31たいなもん)
 - の 城を築いて有力な家医や<u>高工業者</u>を集めて(城下)町をつくったりした。

京都では(町泉)とよばれる存力な 骨工業者が中心となって町ごとの 団結を強め自治組織をつくりました。

一接あれこれ

(加賀の一向一揆)

石川県加賀で、(一向)宗の信着たちかったって護を追い出して100年間独立して自治を行った。

(山城国一揆)

京都府南部で 畠山氏同士か争っているのを 山地から追い出し、8年間独立して自治を 行った。

酒屋や土倉を襲い、借金の証文を破り捨てたり、幕府に(彼政令を要求したりするなど、の一致団結した農民の行動のことを

土一揆)火川ラ。

母正長の土一揆 「石に刻まれた碑女」号

正長元年ヨリサキ(以前)者、カン人(神戸)四カンカウ(四か郷)二子キ×アル人カラス。

「正長元年より以前に関しては、神戸四か多即には复復か一切ない。」というもので、それまでの負債が正長元年ですべて石成業はれたことを示している。